

## 研究に関するお知らせ

救急外来における感染症患者のトリアージツールとしての reverse shock index multiplied by glasgow coma scale (rSIG) の有用性の検討

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院 救命救急センター救急科では、以下にご説明する研究を行います。

この研究への参加を希望されない場合には、研究不参加とさせていただきますので、下記のお問い合わせ先にお申し出ください。お申し出になられても、いかなる不利益も受けることはありませんのでご安心ください。

### ■ 研究の背景・目的

本格的な診療の前に、血圧などの簡単な情報から緊急性の高い病状の方を見つけ、治療の優先順位をつけることをトリアージと呼びます。急性の感染症は時に重篤化し、全身の臓器の働きを障害することがあります。このような状態を敗血症と呼び、本邦など先進国で集中治療室での治療を行っても生命に関わる重篤な病気で、直ちに治療を開始することが求められます。そのため、敗血症においてはトリアージが非常に重要になります。現在、トリアージのための指標としては「qSOFAスコア」、「早期警戒スコア」と呼ばれるものが世界的に使用されていますが、その精度は残念ながら高くなく、緊急性のある方の治療が遅れてしまう可能性があります。

一方で外傷の患者さんにおいては rSIG という指標がトリアージツールとして高い性能があることが報告されています。これは心拍数と血圧、意識の状態の情報のみで点数付けできる指標で簡便であり、感染症の患者さんに対しても緊急性を予測する優れた指標となるのではないかと私たちは考えています。

この研究は、救急外来から入院となった感染症患者さんの外来記録をもとに、rSIG が感染症のトリアージの指標となるかどうかを検討することを目的にしております。

### ■ 研究期間

倫理審査委員会承認後～西暦2022年5月31日

### ■ 研究の対象となる方

2020年1月1日から2020年11月30日に救急科が初療を行い、感染症のため入院された方

### ■ 研究に用いる試料・情報の種類

年齢、性別、外来でのバイタルサイン(血圧や心拍数など)と血液検査の検査値を用います。生年月日やイニシャルなどの個人を特定しうる情報について用いることはありません。

これらの情報の取り扱いに際しては、政府が定めた倫理指針に則って個人情報に厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。

### ■ 研究の同意

研究への参加を希望されない場合には研究不参加とさせていただきますので、お申し出ください。なお、未成年の方やご病状などからご自身での連絡が難しい方、亡くなられた方等に関して、血縁者などの代諾者の方からの問い合わせや不参加のお申し出にも対応させていただきますので、下記のお問い合わせ先にお申し出ください。

■研究計画書等の入手・閲覧方法・手続き等

あなたのご希望により、この研究に参加して下さった方々の個人情報の保護や、この研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことや文書でお渡しすることができます。ご希望される方は、どうぞ記載のお問合せ先にお申し出ください。

■個人情報の開示に係る手続きについて

本研究で収集させて頂いたご自身の情報を当院の規定に則った形でご覧頂くことも出来ます。ご希望される方は、どうぞ記載のお問合せ先にお申し出ください。

■利益相反について

本研究における利益相反の状態は、国立国際医療研究センター利益相反マネジメント委員会に報告し、審査を受けております。本研究では研究全体あるいは研究者に申告すべき利益相反はありません。

■研究責任者:

国立研究開発法人国立国際医療研究センター 救命救急センター救急科 松田 航

■お問い合わせ先

国立国際医療研究センター病院

住所: 東京都新宿区戸山1-21-1

電話番号: 03-3202-7181

担当者: 救命救急センター救急科 松田 航

■掲示場所・交付場所

救命救急センター外来、救急科ホームページ